

侵入者

外来生物は在来種の絶滅や人への被害などいろいろな影響を与えることで問題となっています。鳥取県でも、ヌートリアに畑のトマトを食べられたとか、セイタカアワダチソウで花粉症になったという話をききます。特に問題となる生物は、「特定外来生物」として環境省から指定されています。打吹山の自然林にもこの特定外来生物が現れました。

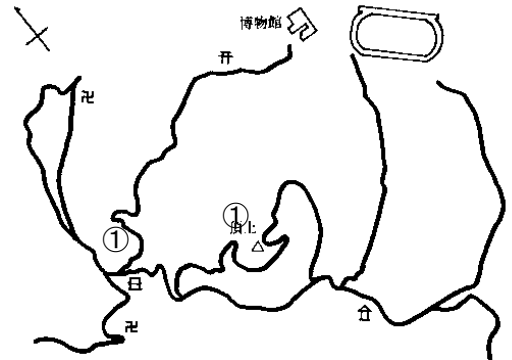
1. ソウシチョウ

赤い嘴に赤、青、緑、黄の羽毛とカラフルなこの鳥は、美しいことと鳴き声が良いことで飼鳥として輸入されていたものです。色彩からは南方系の鳥を想像しますが、インド北部から中国にかけて山地にすむ鳥です。籠から抜け出した鳥の大部分は日本での生活に適應できないのですが、ウグイスと同じようにブナ帯で繁殖し、雑食のソウシチョウは30年以上前から定着し、大繁殖を始めました。



鳥取県では、鏡ヶ成や大山などで繁殖し、冬になると群で低地に降りてきます。打吹山では平成24年秋に鎮霊神社周辺で10羽くらいが藪で餌をあさるのを目撃するようになりました。翌年は峠の展望台あたりまでみられ、26年秋からは数十羽となり打吹公園から長谷の展望台までの遊歩道周辺に非常に多くなりました。天気の良い日はフィーフィーと賑やかにさえずっています。

大山では、他の鳥をさしおいて最も目立つ鳥になってしまいました。外来種は開発され環境が破壊された土地に侵入するものがほとんどですが、ソウシチョウは大山滝周辺のような自然の残った林で繁殖していますので、在来種への影響を心配して特定外来生物に指定されました。



2. キーウィフルーツ(地図中①地点)



雄花

キーウィフルーツとして栽培されているものが、打吹山に見られるようになりました。この栽培種は、ニュージーランドでシナサルナシというつる植物の果実を大きくするよう、染色体を倍加させて品種改良したものです。したがって葉も大きく樹勢も強く、他の植物に被さって光を奪います。打吹山に自生する同じ仲間のサルナシは、このような問題はありません。



小さな黒い種子がたくさん入っていますが、非常によく発芽します。遊歩道沿いで、2株発見しました。果実を食べた鳥の糞の中の種子が発芽したのでしょうか。1株はすでにつるが樹高10m以上のシイの樹冠まで達しています。将来が心配です。

(倉吉博物館専門委員 國本洸紀)